

課 題 シアナミド液剤によるブドウの収穫期前進化技術の確立試験

担 当 者 藤井 美希

目 的 ブドウは8月中旬の盆前が高需要期とされているため、その時期の安定出荷が求められている。生産現場では、春の気象条件が開花期や収穫期に影響を及ぼし、高需要期の安定出荷が難しい現状にある。シアナミド液剤散布は発芽を促進し、発芽率向上や早期出荷等に効果がある。本試験では、本市における供試品種のシアナミド液剤の効果について検討する。

供 試 品 種 ピオーネ、シナノスマイル

試験区構成 1区 15倍希釈のCX-10 植物調節剤シアナミド10%を散布
2区 無散布

区制及び株数 1区制 1区 各品種1樹

耕 種 概 要 栽培条件 施設
散布時期 2月20日
栽植距離 4m(ピオーネ1樹、シナノスマイル1樹)
施肥量 サンミクロ 400g/樹
セルカ2号 100g/m²
成分量 N0.31-P0.35-K0.31 kg/樹
収 穫 ピオーネ 1区 8月20日、2区 8月24日
シナノスマイル 1区 9月12日、2区 9月18日

結果及び考察

1 生育状況

ピオーネ及びシナノスマイルそれぞれ、シアナミド処理区(1区)では4月3日に発芽した。対照区(2区)と比較して、1週間程発芽が早まり、各芽の発芽のタイミングが揃っていた。

また、シアナミド処理区(1区)では、ピオーネ及びシナノスマイルともに、花の満開日が5月16日から5月17日の間で比較的揃っていたのに対し、対照区(2区)は5月16日から5月21日の間に各花が開花し、開花のタイミングのばらつきが大きかった。ジベレリン処理は、シアナミド処理区(1区)は1回目処理を5月19日、2回目処理を5月29日に行った。一方、対照区(2区)は、開花のタイミングが揃っていなかったため、1回目処理を5月19日及び5月23日の2回に分けて行い、2回目処理を5月29日に行った。

着色開始時期については、シアナミド処理区(1区)では、ピオーネは7月2日、シナノスマイルは7月5日に見られ、対照区(2区)と比較して5日程早まり、その後の着色程度も良好であった。収穫時期については、シアナミド処理区(1区)では、ピオーネは8月20日に収穫し、シナノスマイルは9月12日に収穫を行った。対照区(2区)と比較して、ピオーネは4日、シナノスマイルは6日収穫時期が早まった。また、シアナミド処理区(1区)では各房の成熟が揃ったため、対照区(2区)では4日間に分けて収穫したのに対し、シアナミド処理区(1区)では2日間に分けて収穫を行った。

2 調査結果

- 1) シアナミド処理を行うことにより、4月の発芽及び5月の開花、8～9月の収穫、それぞれタイミングが揃い、芽かき及び摘心、ジベレリン処理、収穫作業の適期も揃ったため、作業時期が集約され作業時間が短縮した。
- 2) ピオーネは着色程度に差はあまりみられなかったが、シナノスマイルでは、シアナミド処理区（1区）は、対照区（2区）と比較して、着色が良好であった。
- 3) 果実の糖度については、シアナミド処理区（1区）は、対照区（2区）と同等の品質であり、シアナミド処理で発芽期を前進させても果実品質に影響なく、シナノスマイルでは若干の糖度の向上がみられた。

3 総評および今後について

ブドウ栽培では、夏の高温による着色不良が問題となっており、今回、着色が向上したことについては、シアナミド処理により全体的に生育が前進し、高温の影響が少ないことが原因だと考えられる。シアナミド処理を行うことにより、作業時間の短縮化及び着色の向上がみられたことから、今後、本市の農家への普及及び指導を進めていく。

表 1. 平均糖度及び果房重（調査数：各区 15 房）

品種	区制	糖度 (° Brix)	果重 (g/房)
ピオーネ	1 区	18.5	449.3
	2 区 (対照区)	18.7	620.0
シナノスマイル	1 区	19.1	493.9
	2 区 (対照区)	18.4	568.3

図 1. シナノスマイルの着色程度

